



# 2022年度 決算説明会

JT Group CFO  
加藤 信也

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。  
※用語の定義については、スライド14以降に記載しております。

# 将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予期しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

- (1) 喫煙に関する健康上の懸念の増大
- (2) たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
- (3) 国内外の訴訟の動向
- (4) たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
- (5) 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
- (6) 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少
- (7) 買収やビジネスの多角化に伴う影響
- (8) 国内外の経済状況
- (9) 為替変動及び原材料費の変動
- (10) 自然災害及び不測の事態等



# 2022年度 実績

# 2022年度 全社実績：売上収益から当期利益まで、過去最高を実現\*

(億円)	2022年度	前年度比
<b>財務報告ベース</b>		
売上収益	<b>26,578</b>	+14.3%
調整後営業利益	<b>7,278</b>	+19.2%
営業利益	<b>6,536</b>	+31.0%
当期利益	<b>4,427</b>	+30.8%
FCF	<b>3,829</b>	▲991億円

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。

為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

\*売上収益、調整後営業利益、継続事業における営業利益、継続事業における親会社の所有者に帰属する当期利益

為替一定ベースcore revenue：前年度比 +4.8%

為替一定ベース調整後営業利益：前年度比 +9.0%

- 年間を通じ、たばこ事業におけるプライシング効果が牽引

## 売上収益・調整後営業利益（財務報告ベース）

- たばこ事業のビジネスモメンタムに加え、大幅な円安効果により増収・増益

## 営業利益

- 調整後営業利益の増益に加え、前年に発生した一時費用の剥落影響もあり、増益

## 当期利益

- 営業利益の増加が金融費用の増加を大きく上回り増益

## FCF

- 調整後営業利益は増益も、運転資本の悪化や法人税支払の増加、日本におけるたばこ事業運営体制強化施策費用の支払等により減少

# たばこ事業：数量及び財務実績

## 数量実績

(億本)	2022年度	前年度比
総販売数量	5,273	▲0.5%
Combustibles販売数量	5,194	▲0.7%
RRP販売数量	79	+10.3%

## 財務実績

(億円)	2022年度	前年度比
自社たばこ製品売上収益	23,152	+15.6%
(同 為替一定)	20,981	+4.8%
調整後営業利益	7,540	+18.0%
(同 為替一定)	6,919	+8.2%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。

為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

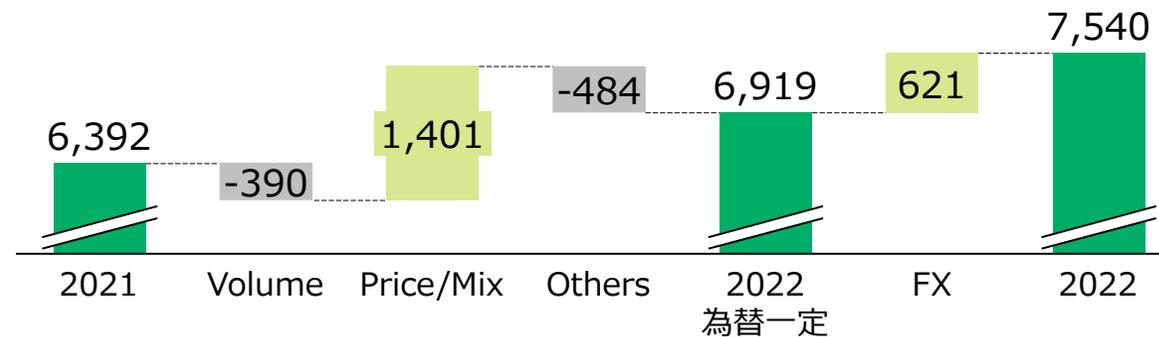
## 自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益

- 自社たばこ製品売上収益：力強いプライシング効果により増収
- 調整後営業利益：プライシング効果がインフレ影響に伴うサプライチェーンコストの増加を大きく上回り、増益

## 為替影響

- 円安効果により、前年度比で大幅なポジティブ影響

## 調整後営業利益 増減要因 (億円)



# 医薬事業・加工食品事業：財務実績

## 医薬事業

(億円)	2022年度	前年度比
売上収益	829	+3.1%
調整後営業利益	111	+0.5%

## 加工食品事業

(億円)	2022年度	前年度比
売上収益	1,555	+5.6%
調整後営業利益	35	▲11.3%

- **売上収益**：鳥居薬品において、皮膚疾患領域ではアトピー性皮膚炎治療薬「コレクチム®軟膏」、アレルギー領域では「シダキュア®スギ花粉舌下錠」「ミティキュア®ダニ舌下錠」の売上が伸長した結果、一時金収入・ロイヤリティ収入は減少したものの、前年度比で増収
- **調整後営業利益**：売上収益の増収が、鳥居薬品における研究開発費等の増加を相殺し、前年度と同水準
- **売上収益**：コスト上昇に対応した価格改定を主因に、前年度比で増収
- **調整後営業利益**：価格改定に伴う売上収益の増収影響があるも、原材料費等の大幅な高騰やネガティブな為替影響、前年度に発生した保険金入金の反動影響が上回り、前年度比で減益



# 2023年度 業績見込

# ロシア市場における現況

---

## ロシア市場における事業概況

- ロシア・ウクライナ情勢が長期化・複雑化する中、国内外におけるあらゆる制裁措置・規制等を順守した上で、事業運営を継続しているところ
- 引き続き、経営理念である4Sモデルに則り、必要な意思決定を行っていくことにより、この難局に対処していく

## 利益水準及び為替センシティブティガイダンス

- 当社グループ全体の売上収益及び調整後営業利益にロシア市場が占める割合は、2022年度実績においてそれぞれ約11%、約22%。また、2023年度通期見込においてはそれぞれ約11%、約25%
  - センシティブティガイダンス
    - ロシア・ルーブルが円に対して前提レートから1%変動する場合、調整後営業利益（2023年）に対して通年で20億円強の影響が生じる見込\*
- \*RUB以外の主要通貨の為替感応度は次の通り：各通貨に対して前提レートから1%円安方向に変動する場合、2023年の調整後営業利益見込への影響はGBP約+10億円/ TWD 約+10億円/ PHP 約+10億円/ EUR +10億円弱/ CHF 約-5億円

# 2023年度 業績見込：全社

(億円)	2023年度	前年度比 増減	前年度比 (%)
<b>財務報告ベース</b>			
売上収益	<b>26,290</b>	▲288	▲1.1%
調整後営業利益	<b>6,670</b>	▲608	▲8.4%
営業利益	<b>6,120</b>	▲416	▲6.4%
当期利益	<b>4,400</b>	▲27	▲0.6%
FCF	<b>4,020</b>	+191	-

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。

為替一定ベースcore revenue：前年度比+2.0%

為替一定ベース調整後営業利益：前年度比+0.0%

- たばこ事業におけるプライシング効果を、サプライチェーンコスト上昇及びHTS\*への投資強化が相殺

\*heated tobacco sticks

## 売上収益

- 医薬事業で増収を見込むものの、たばこ事業における円高によるネガティブな為替影響により、減収

## 調整後営業利益（財務報告ベース）

- 医薬事業・加工食品事業において増益を見込むものの、たばこ事業における円高によるネガティブな為替影響（600億円程度）により、減益

## 営業利益

- 商標権償却費の減少等が調整後営業利益の減益を一部相殺するも、減益

## 当期利益

- 金融損益の改善等が営業利益の減益を一部相殺し、前年と同水準

## FCF

- 前年に計上した日本におけるたばこ事業運営体制強化施策に係る支払いの剥落や法人税支払の減少が、調整後営業利益の減益及び資本的支出の増加を上回り、前年度比+191億円

# 2023年度 業績見込：たばこ事業

## 数量前提

2023年度

総販売数量 前年度比▲1.5～▲2.0%程度

## 財務見込

(億円) 2023年度 前年度比

### 財務報告ベース

自社たばこ製品売上収益 22,930 ▲1.0%

調整後営業利益 6,960 ▲7.7%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。

## 数量前提

- (+) Combustiblesにおける堅調なシェアモメンタムの継続、新興国市場・GTRにおけるCombustibles販売数量伸長、RRP販売数量の伸長
- (-) 日本、フィリピン、ロシア、英国等でのCombustibles総需要の減少

## 財務見込（為替一定ベース）

自社たばこ製品売上収益：前年度比+2.2%

- (+) 持続的なプライシング効果の発現
- (-) Combustibles販売数量減少及びダウントレーディング

調整後営業利益：前年度比+0.4%

- (+) トップライン伸長
- (-) サプライチェーンコストの上昇、HTS地理的拡大に伴う投資の増加

## 財務見込（財務報告ベース）

自社たばこ製品売上収益・調整後営業利益

- (-) 多くの通貨で円高を想定し、ネガティブな為替影響

# 2023年度 業績見込：医薬事業・加工食品事業

## 医薬事業

(億円)	2023年度	前年度比
売上収益	895	+8.0%
調整後営業利益	135	+21.1%

- **売上収益**：導出品のライセンス契約に伴う一時金収入の増加及び烏居薬品の増収が、海外ロイヤリティ収入の減少を上回り、増収
- **調整後営業利益**：売上収益増収が、研究開発費の増加を上回り、増益

## 加工食品事業

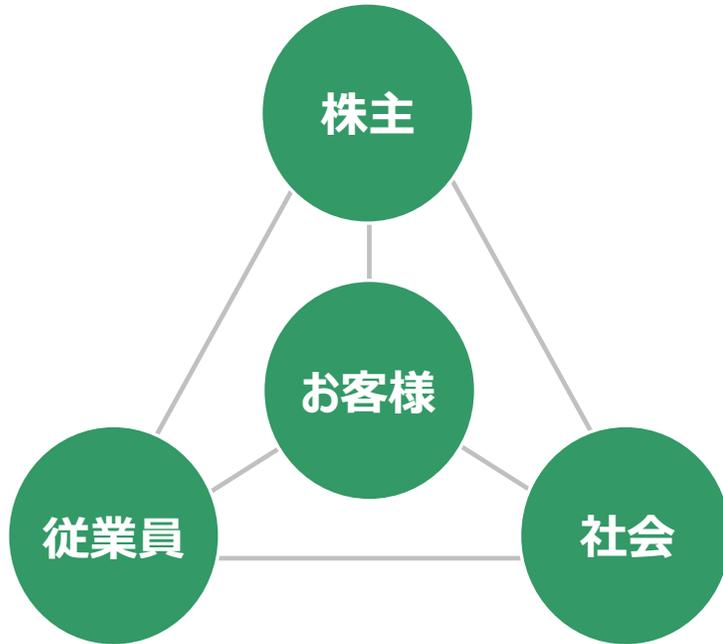
(億円)	2023年度	前年度比
売上収益	1,475	▲5.2%
調整後営業利益	40	+14.0%

- **売上収益**：価格改定によるトップライン伸長を見込むものの、ベーカリー事業の譲渡影響により、減収
- **調整後営業利益**：前年度実施分に加えて当年度計画している価格改定効果が、原材料費や光熱費等のネガティブ影響を上回り、増益



終わりに

# Closing Remarks



## 2022年度実績について

- 困難な事業環境の中においても、たばこ事業におけるプライシングとCombustiblesシェアの伸張により、力強い利益成長を実現
- ビジネスモメンタムに加え、円安効果も後押しし、売上収益から当期利益まで、過去最高となる実績\*

## 2023年度業績見込について

- JTグループの将来に亘る利益成長実現のための礎を作る年として、HTSカテゴリを中心とした事業投資を強化
- プライシング効果と適切なコストマネジメントにより、為替一定調整後営業利益は対前年フラットを見込む

## 株主還元

- 一株当たり年間配当金（予定）
  - 2022年度：188円
  - 2023年度：188円

## <用語の定義>

調整後営業利益（AOP）：	営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定ベース：	前年同期の為替レートを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
為替一定ベースcore revenue：	前年同期の現地通貨対米ドル、米ドル対円の為替レートを用いて換算／算出することにより為替影響を除いた自社たばこ製品売上収益 + 医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
当期利益/四半期利益：	親会社の所有者に帰属する当期利益/四半期利益
Reduced-Risk Products (RRP)：	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品。当社製品ポートフォリオにおけるheated tobacco sticks (HTS), infused-tobacco capsules (Infused), E-Vapor, 無煙たばこ製品等が含まれる
Heated tobacco sticks (HTS)：	高温加熱型の加熱式たばこ。1スティック = RMC1本として換算
Combustibles：	製造受託／水たばこ／加熱式たばこ／無煙たばこ／E-Vaporを除く可燃性のたばこ製品
GFB： (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド

## <用語の定義>

---

総販売数量：	水たばこ／製造受託／RRPデバイス及び関連アクセサリを除いたばこ製品の販売数量
Combustibles販売数量：	水たばこ／E-Vapor／無煙たばこ（Snus・ニコチンパウチ）／加熱式たばこ／製造受託を除いたばこ製品の販売数量
RRP販売数量：	Reduced-Risk Products (RRP)の販売本数（RMCとして換算）。デバイス/関連アクセサリ等は含まない
自社たばこ製品売上収益：	物流事業／製造受託等を除く売上収益